六月十二日夕刊
常磐毎日新聞
日刊
定價 一部…錢 一ヶ月金五拾錢 郵税五厘
廣告料 五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 山崎又治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話六二〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

越後山形後記

平町御代豊

新緑香る六月五日、平驛前五十嵐商店の越後旅行會に參加し、平驛を發つたのが午前十一時十八分だつた。前夜まで胸の高鳴るを覺えて居たが、黑煙はいてホームをすべつた時には己に長途の旅に付いた……と云ふやうな安心でか汽車の走るのが非常に遲いやうな感じがする。小川を過ぎた頃より酒肴の饗應を受く、一行五十餘人汽車の中にて酔眼朦朧として鼻唄さえも聞いて來る。同乘の客吾等の異樣の樣に眼を見はる。郡山を過ぎた頃高山に一点白雪の殘るを見るやがて川桁を過ぎ猪苗代の町に近づく頃樹間を通して青疊を敷けるが如き水面を見る。

いはゆる我縣随一の湖水我國有數の湖水として有名なる猪苗代湖の横たへるなり其の湖面に連山の例影畫けるが如くなり、思はず讃歎の都を上ぐ仰げば偉大なる磐梯の靈峰白雪一点を殘し大なる自然の美を秘め永しへに朽ちず變らざる神秘の姿を拜し、しばし恍惚しとも、限りなきの美限りなきの回想もて溢る、あゝ偉大なるは磐梯の靈峰よこの靈峰を後に列車は白虎隊の若松を過ぎ、會津盆地を目ざす新潟に向つてひた走り猪苗代の支流鐵路に沿ふて流るを見る。流れと新緑の淵とが相寄り相競つて水勢はこゝに至つて沼々と激湍の飛沫を上げ急瀬岩床をかんで響き物凄く……と思ふとたちまち碧潭洋々として青白く、死を誘ふ魔の淵の如き風火を賞でつゝも列車は午後のまどらかな陽をあびてこゝ新潟縣の新津町に着く時に六時半、車中の人となりてより約七時間一行いさゝかのつかれも覺えず驛前の美好旅館にて夕食をとる人物、風俗皆裏日本に來たと云ふやうな感じを起させる。第一夜の宿たる瀬波溫泉に向つて夜の越後平野を驀進する、日本海に沿ふた越後平野さすがに寒冷を覺えさす。午後十時村上驛より自動車にて瀬波溫泉に向ふ。漸く本洲横斷を終へて第一夜を明かす。翌朝十一時出發己に汽車は山形縣に入る。五六の驛を通過して羽前大山驛に下車す。

旅行第二日目の午後一時自動車にて途中善寶寺に參詣し、二里の行程を湯濱溫泉に走る。こゝ日本海の波靜かなる。龜屋ホテルに旅裝を解くこのホテル風光明眉且つ別館の如きは壯麗と云ふか奇觀と云ふか、あらゆる装飾の美の盡し現代建築の粋を集め、溫泉情抒いよ／＼深からしむ。

夜に入り宴會に移り山形の美妓十數名吾等石城人に百パーセントのサービス振りすつかり悦に入り夜の更くるを知らず。

一夜明くれば旅行の最終日天候險惡にして小雨さへも混る最後に當つて惡むべきはこの天氣自然の爲す所致し方なく涙を呑んでホテルの女性達十數人に送られ電車にゆられ／＼て歸途に付く、東突より眺むれば上半身白雪もて覆はれし、月山の神々しき姿に接し衿自づと正す、歸途鶴岡驛に下車し、大正閣にて晝食をとる深山幽谷に入りし如き結構壯大なる庭園に一同腰打ち下して甜ふ。こゝ鶴岡の町我が日本の産める文豪高山朽牛の生誕地なり、そゞろに偉人の面影を偲ぶ。あと仙臺まで列車は陸羽車線を一直線に下る。仙臺停車一時間市中を見學し東北の帝都の文化發達に讃歎の息をもらす。

青葉の仙臺を過ぎればなつかしの平も目のあたりだ。宮城野原をひた走りに走り續け、この頃夜の九時に近く一同ゆられ／＼て、全身綿の如くつかれ、遂に居たゝまれずボックスに横になり、或は扉によりかゝり千種千様の姿態を作る。三日の行程、日は淺く旅は長し、忘れようとして忘られぬあの溫泉の情抒車中幽明境にありて倘それらを回想す

地相 家相 人事 百般 鑑定
平町堂ノ前一番地
高島易斷所
野澤定象

十三日 庚戌五黄先勝定るの日

【一白】深身に陷り困苦の生ずる日なれば現狀維持が吉
【二黑】病氣、怪俄、紛失、爭論等に注意
【三碧】我が目的を達せんとして反て不信を受け約束は違約となる日
【四綠】金談、縁談、取引總て不調に終るの日
【五黄】病氣、怪俄、紛失移轉轉職の心配が起るの凶
【六白】目上と金談の衝突が起るの凶
【七赤】金融も良く萬事進て吉なるも酒色に注意
【八白】新古の問題て頭痛又病氣見舞の心配もある凶
「米」上廻「株」下廻

是非御利用を
◀營業時間午後九時迄▶
平町四丁目河岸通り
三井質店
【電話六〇六番】

外科
花柳病科
外科專門
木村外科醫院
自炊入院の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九

御贈答に!!!
記念品に!!!
諸景品に!!!
漆器を!!!
專門の㊒は
誠實勉强
親切第一
在庫豊富
是非御用命を
ドコヨリモ、ヨイシナヲ、ドコヨリモ、ヤスクウル、ヌリモノミセ
平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)
各國産漆器
專門卸小賣
㊒漆器店
店員募集
十三四才位 小店員
三十才迄位 外交員

夏服
シルクポーラー最上仕立三ツ組 拾六圓五拾錢
ポーラーセビロ(上下) 八圓三十錢
黑セル上衣 三圓ヨリ
グラニット白ズボン 一圓五十錢
白キャラコ 五十錢ヨリ
白セルズボン 三圓五十錢ヨリ
平町四丁目停車場通
正札堂洋服店
(電四三六番)

看護婦急派の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

外科・婦人科
井坂醫院
平町田町
電話五五九番

美味! 芳醇!
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

ふらぬ入梅

幾分濕氣が多くなるが 雨の模樣は更らにない

小名濱測候所の話

昨十一日は入梅だ、梅雨期は濕氣が多くじめ〳〵した日が續き衣類のやうなものはすぐカビが生へる、傳染病等も流行し易い、毎日誰しもいやな天氣の續く季節だ、しかし本郡には梅雨に入つてもそう變りがなく夏至に近い頃になつてはじめて梅雨に入つたやうな氣持がするのである、近年は殊にそういふ氣がする、小名濱測候所では

入梅だが雨は降りそうもありません、午後あたりより少し曇つて來ますが雨が降る程度でないしまア當分は梅雨の樣な氣がないでせう、然し今迄よりは幾分濕氣が多くなります、傳染病等の傳播するのもこの季節です、少し農作物をうるをす樣雨でも降れば農家は喜ぶがこの有樣ではネ………。

と語つてゐた。

農繁手間賃

好況時の三分の一

男七十錢、女五十錢前後

石城郡下各農家の田植は今月下旬頃より一齊に行れるので平町附近の飯野、平窪兩村等では早くも平町の農家手傳人に交渉して居るが手間賃は男七十錢、女五十錢前後で昨年の男一圓、女八十錢に比し卅錢安く數年前の一人二圓五十錢もした手間賃の約三分の一である

木炭檢査俵數

濱三郡木炭同業組合員の去月中に於ける出炭檢査俵數は石城が十萬四千百六俵、双葉八萬四千八百八十俵、相馬二萬三千四百九十一俵合計二十一萬二千四百七十七俵で昨年同月に比較して六萬九千五百一俵の增加を見た是れは木炭檢査縣營實施の為め生產品の總檢査をせる結果であると

平窪村議

十一日結果

石城郡平窪村の村會議員改選は昨十一日執行當選者は左の如くである

五九	小泉　長俗
四九	小野清四郎
四五	上妻萬治郎
同	吉野喜相太
四四	根本　丑松
同	薄葉　竹松
四三	木田　源宗
同	矢吹　長一
四二	鈴木寅次郎
四〇	松崎　松治
同	高萩　盛男
三六	鈴木　勇
次点	
三〇	矢吹　初彌
一三	松崎善之助
一一	藁谷藤太郎
同	櫻井　政光

各町村で一齊に

滯納の公賣處分

平税務署では七年度後期國税滯納整理の為め各町村左記日割を以て公賣處分に附する事になつた

(十八日)上遠野(廿日)内郷(廿一日)湯本(廿二日)好間(廿三日)澤渡(廿四日)永戸箕輪(廿五日)平草野(廿六日)川前(廿七日)上下小川、赤井(廿八日)植田、荷路夫、田人、山田(廿九日)勿來、植田、川部(卅日)小名濱、泉

高月軍の進境目覺し……

決勝戰は十八日

開始された磐陽野球大會

既報磐陽野球大會第一回戰高月(磐中)對磐炭の試合は去る十日午後二時より磐中球場に於て擧行高月軍進境目覺しく凄い當りを見せ左の戰績にコールドゲームにて大勝

	一	二	三	四	五	六	七	計
磐炭	0	0	2	0	0	0	0	2
高月	3	2	15	4	1	1	1	27

續いて昨日午前十時より揚

磐女籠球辛勝

既報十日の磐女對平第一校のバスケットボール試合は十五對十三のスコアーにて磐女辛勝したと

土平商對古河及び鐵道對平倶樂部の試合が行れたが戰績は左の如く揚土、平倶いづれも惜敗

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
古河	8	1	0	1	0	2	1	2	A	15A
揚土	2	0	3	0	1	1	0	1	0	8

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
鐵道	2	1	0	0	3	0	2	2	A	10A
平倶	2	0	0	2	2	1	2	0	0	9

來る十八日は午前九時より入山球場に於て高月對入山磐中球場に於て古河對鐵道の第二回戰が行れる事になつたが決勝戰は同日午後二時より磐中グランドに於て行ふと

平倉庫の共米

平農業倉庫共同販米は昨十一日執行出荷三百八十一俵を入札せる結果甲四等建値八圓三十二錢で平町の大谷要次郎氏に落札され乙米は建値八圓二十一錢で勿來町松本米穀店に落札されたが前回より六錢の高値であると

赤木知事が來郡

今晩は四倉に一泊

赤木本縣知事は昨十一日石城郡下の蠶業視察の為め同日午後五時平驛着直に湯本松柏館に一泊の上本日は植田錦方面の蠶業視察午後は夏井川下流の改修工事場及び四倉漁港を視察し本日四倉に投宿明十三日相馬郡に向ふと

平町人事

回　婚　姻

△山形縣東村山郡山邊町字山邊高橋松治氏(二七)長橋町六三佐藤マス(二五)

回　死　亡

△南町六二　山岸良太郎(五九)

△鎌田五三　大樂タケ(二七)

△新川町一　當時東京市芝區芝浦町一ノ二夏根井延子(一ッ)

選擧戰……初陣物語(五)

川崎　文治

◇然るに僕を最も心配して呉れる友人達が『どうも君の表情が樂觀して居て、何んとなく確信あり氣に見える、選擧は同情を受けなければならぬのに、樂觀した顔付きでは駄目だよ』と盛んに氣を揉み出した。

◇僕としては毎夜寢につくのが二時か三時になり、身心共にヘト〳〵で健康法のラヂオ体操さへ休止の狀態なので、鏡の中の自分の顔に滅ッ切りヤツレが肯けるのであるのに『樂觀の表情』とは何を云ふのか『オイこんなに痩せたのに、何處に樂觀の顔付がある』と聞けば『痩せたのは身心過勞の為めだ、心顔に現れる表情は匿せない、君の顔には樂觀と書いてあるゾ』といふ。

◇斯ふ云はれて成程ナーと思つた事は、自分の此時の心境としては、勝敗は時の運だ、自分自身としては今全生命を打ち込んで戰つて居る、應援者の各位も非常な熱と力とを以つて僕を支へてくれて居る、これ迄にやつて、これで敗れるならば、即ち人事を盡して天命を待つのみ……、以つて瞑すであると、既に當落を超越して、恰も爼上に乘せられた鯉の如く、悲壯な?　イヤ全く『悲壯』なである、悲壯な度胸が腹のドン底から盛れ上つて來たのであつた。

◇イヤ或ひは半ば捨て鉢な氣持ちであつたかも知れない、而し兎に角、此の悲壯な度胸に依つて、つきつめた心に餘裕が生じた事は事實だ、此の止むを得ずに生じた心の餘裕が、當時の僕の『樂觀的表情』になつて現れたのかも知れない。

◇夫れにしても、此の僕の顔色を直ちに讀んで心配してくれる友の心の有難さよ！　今でも夫れを思ふと目頭が熱くなる。

看護婦急派の求めに應じます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

ネヂ廻しを使つて ミシン器三臺窃取

磐城高女に賊忍び入る

コソ泥等の仕業でない

十日午後一時頃磐城高等女學校森敎諭が同校ミシン室のミシン機械三臺窃取された事を發見大騷ぎとなり直ちに平署に届け出たので同署より係官急行現場を臨檢したが賊は九日夜硝子窓を外して忍び入りネヂ廻しを使用して取外した形跡あり此の手口より見て單なる胡鼠泥の仕業ではなく相當ミシンに關する智識を持つ者が計劃的に窃取したものであるらしいと

五十圓で

女房を探す

茨城郡那珂郡佐野村字高野小野瀨常三郎妻アキ(三三)は昨年十二月八日家出をなした儘行衛不明となつたが石城地方に居住して居るらしいと本日夫より懸賞五十圓付の捜査願ひが平署に出た

小名濱疑獄

公判明日から……

元所長は犯意否認

既報樗木元小名濱築港所長を中心として捲き起された地方稀れな疑獄事件

小名濱町字定西二百三十六番地內務省技師樗木篤夫(四二)に對する瀆職同町字横町三十七番地醫師久保田眞(五八)同町字定西五十九番地砂利販賣業高木武士(三二)江名町大字江名南町十四番地土木請負業鈴木省三(四六)湯本町字辰ノ口四十三番地自動車業長岡義守(四九)平町十五丁目二十二番地木材商兼土木請負業馬目雄次郞(五三)の五名に對する贈賄事件の公判は

愈々明日 及び明後日の二日に亘り午前十時より平支部に於て中島判事係り關口、竹內兩判事陪席、小林檢事立會の下に開廷されるが樗木が飽迄自己の犯罪を否認して居る處から取調べ上に一大曲折を生ずべく又各被告人の係り辯護士は左の如くで世人の注目を引いてゐる

(樗木)武田 東京小林
(鈴木)安齊(久保田)安齊
山野邊 安藤(長岡)門傳
(高木)松野尾 新田目

六百餘圓を集金し 俄かに大盡

毎夜の如く豪遊

女給を連れ出して捕る

平町田町旅人宿甲陽館方へ去る八日より投宿した自稱田村郡片曾根村字船引宮地時夫(二六)は毎夜の如く豪遊するので平署で怪しみ內偵の結果同人は東京市下谷區北荷稻町製粉械商今井合資會社外交員で本月初旬より平町附近より集金した六百餘圓で豪遊して居る事判明去る十日カフエーボタン方女給千代子外三名を連れ出し四倉町海氣館に登樓した處を平署の手配で取押へられた

學校迄の時間……

どの位ひかゝる？

▽……距離と共に測定

既報平第二小學校にては去る時の記念日に學校を中心として距離及び通學所要時間を左の如く測定をなした

(役場五六七米)七分(丸新デパート七五〇米)八分(停車場八七九米)一一分(郵便局一二一五米)一四分三〇秒(第三小學校一七九三米)二二分(片倉製糸會社二〇四八米)二五分(常磐銀行九二〇米)一二分(警察署一一七八米)一三分(尼子橋八八〇米)一二分(鎌田橋二二二六米)二八分三〇秒(磐中八九三米)一一分二〇秒(磐女九二五米)一一分五〇秒

JOHK 明日のラヂオ 十三日 仙台放送局

天氣豫報

今晩は北東の風驟雨氣味明日は曇模様

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 童謠と童話 童謠 聖愛幼稚園々兒 ピアノ伴奏大和淑子 四童話「ノアのアコ舟」武田榮七
▼後六、二五 英語講座(四の一) トーマスライエル
▲後七、三〇 產業ニース
▼後八、〇〇 拳鬪試合實況 讀賣新聞社主催(兩國國枝館より中繼) 日佛對抗拳鬪試合
▼八、四五 端唄と歌謠曲 勝太郎 三味線 千代松 洋樂伴奏
▼後九、〇〇 落語 桂小文治

明日の部

▼後九、三〇 時報 氣象通報 番組豫告 ス
▼前六、三〇 基礎ドイツ講座(二七) 橋本忠夫
▼前九、一〇 料理献立「新馬鈴薯のトマト煮」 小林忠夫
▼前一〇、三〇 家庭講座「七月朝茶の湯」(懷石料理法) 栗山善四郎
▼後〇、〇五 獨唱
▼後二、〇〇 家座大學講座「エジプト」 法學博士 芦田均
▼後六、〇〇 子供の時間 お話「書聖竹田」 黑川健士
▼後六、二五 末定
▼後七、三〇 講演
▼後八、二〇 映畵物語 伴奏指揮 中村聲波 島田晴譽
▼後八、四〇 義太夫「天網島時雨炬達」(茶屋塲の段) 浮るり 豊竹駒太夫 三味線 竹澤團六

・馬城會の役員

既報在平相馬郷友會馬城會では去る十日午後六時から住吉屋本店に總會を開き役員選擧の結果左の如く決定した(會長)永野柳造(會計)井上貞治(幹事)齊藤敏實外九名(馬城會支部會長)齊藤敏實(幹事)眞木恒氏外四名

優等生に

なり度い生徒は

此の事を守りなさい

第二の揭示敎育

平第二小學校にては此程優等生になるには斯うしなさいと左の如き揭示敎育をして全校兒童の注意を促した

一、早起、早寢をすること

二、授業中は熱心に先生のお敎へを聞く事

三、わからない事ははづかしがらずに聞きたゞす事

四、毎日きまつておさらへをする事

五、遊ぶ時間には元氣に愉快に遊ぶ事

裁判所だより

▽既報双葉郡木戸村矢內忠夫(三六)矢內道夫(四四)矢內義衛(三三)矢內市郎(五七)根本多吉(三三)根本廣吉(三四)松本源七(五七)松本傳吉(三八)松本光淸(四二)松本寛(五二)松本重造(五二)松本郎治(五三)梶原茂(二二)松本丑雄(二七)の十四名が同村齊藤庄七が村道に家を建てやうとコンクリートの基礎工事をしたのを噴慨し共同して破壞した暴力行爲事件の公判は本日午前十時より平區裁判所に於て關口判事係り小林檢事立會、山野邊、安齊、武田各辯護士列席の下に開廷され檢事より各罰金二十圓宛求刑されたが言渡しは來る二十四日午前九時であると

新妻佐喜柱さん

Akに參加出演

恩師上原氏に招かれて

平町四丁目琴曲師匠新妻佐喜柱さんは恩師上原眞佐喜師に招かれ十一日夜丸ビルに開かれたまゝごと會の『多摩川』に出演し更らに明十三日午後八時廿五分からは上原師及び岩田眞佐壽師がAKから放送する琴曲『近江八景』に參加出演すると

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第三百六十二席　物外と近藤勇

物外名を明す

近藤勇は出家の爲に槍を打ちをとされ、殊に椀を以つて目鼻をおはれ、アッと云つたが、ヒラリと飛び上り武者溜りの刀架けあつた虎徹のきたへた一刀を引き拔いた、時にころぶが如く此の道場にとび込んで來たは今辨慶と云はれた齋藤勘太夫

勘『隊長暫らくお待ちください、お出家も暫らく待ちなさい、まつた／＼』

と云ひながら二人の間に突立て手を開いて止めた、其時に物外は勘太夫を見て

物『オヽお前は先達て松崎と申す齒醫者の許にてあつた入物であつたな』

勘『御坊、あなたの力には驚き入つた、隊長此の僧侶は先だつてお話しいたした怪僧でございます、手前の持つ居つた鐵の杖を細の如く扱ふた大力無双の僧でござる』

云はれて近藤が

近『オヽ貴公の杖をまげ居つたは此の僧であつたか成る程貴公の申す通りこれは怪僧だな、劍法に達し殊に大分定めし世に高名の僧であらう、御出家御身何れの者にて何と申されるか』

物『わしは備後御調郡栗原府の濟法寺と申す貧乏寺の和尚で物外と申す者だ』

これを聞いて近藤が

近『さては物外禪師とは貴僧のことでござつたか存せぬ事とで失禮いたした、豫て濟法寺の不遷物外和尚は學德共にすぐれ、殊に武藝に達し又大力なる由承りをつたが、よき折柄御面會いたした、拙者ことは近藤勇と申す者にござる』

物『ア、左様か、新撰組に近藤勇殿の在することは愚僧も承知いたし居つたが妙なことからお會ひ申したなつまづく石も縁のはしと申すことわざもあれと突き出す槍と投げて椀が縁となつて互に名乗り合ふとは摩訶不思議』

勇『大きに御無禮を致した先づ和尚これへ御出で下さい』

と武者溜りに招じ一刀を鞘に納めて近藤はうや／＼しくゑしやくいたす、道場に居た者も此の坊主は今の世の傑僧と云はれる物外和尚かと大いに驚いて、めい／＼それへまゐつて初對面のあいさつを致した、これから近藤が酒肴を出してもてなす、[illegible]は

物『これはすまぬな、しかし折角の厚意を辭するは無禮頂戴いたす』

と例のわんに酒をついでグー／＼と飲みほす、長鯨が百川を吸ふが如しとは唐詩選にもあるが、物外の酒を飲む様は渴せし者が水を呑む様

物『大きに御馳走になつたイヤもう酒はいかん』

近『然らば御飯を召上れ』

物『めしは斷る、もうこれにて滿腹いたした』

近『然らば粗茶を献じます』

これから薄茶をすゝめた其時に絹を其れへ出して

勇『これをお染めくださいい今日貴僧の御出になつた記念として當道場に筆跡を殘し置きたく存じ申す』

物『左様か、それではこの絹を汚すかの何う云ふ者を書きます、お望みに應じて繪なりとも書なりとも致すであらう』

勇『お心にかないし物を御揭毫下さい』

物『それでは何ぞ目出度い物を、ウーム三國一の名山をかくかな』

と云ひつゝ筆をとりあげて富士を書きまして

物『これは江戸から見た富士だ』

勇『贊をして頂きます』

物『さうか、それでは舊作であるが許してください』

とこれへ書いたは『農年が江戸でも見ゆる富士の雪』としたが書はすこぶるへういつで書もまた風ゐんがある、文字は其の人の性格を現はすとか、性質の良くない者は文字もごまかしてゐる、正直な者は字格が正しい、上手でも格が正しくなくば字ではないそうです、それに引きかへ我々はのんき氣です、一ッ字を八方に融通する間貸つて居様が何うあらうが自分にさへ分ればそれで宜しいと思つて居るまた一ッ絹を出した近藤が

勇『何ぞこれにも御認め下さい』

と申した

物『それではもう一枚よごすかな』

と云ひながら『西東採まれてのびる柳かな』としたが

物『何うだなこれで宜しいかな』

勇『面白い句でございます』

と大層賞美した。

專門　内科一般
宅診　往診　内科は何でも診療致します　呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五
川井内科診療所　電話一八一番
醫學士　川井重之
女醫　川井安子

木炭代用この上のない經濟の
德用な　豆炭
壹袋正五貫目入金八十錢也
御注文次第御届ケ申シマス
三丁目(電話六六三番)　磐崎屋酒店
一町目(電話五九六番)　菅本武雄商店
白銀町(電話二九九番)　水野氷店
六町目　矢吹石炭商店
平驛前(電話三七番)　㋡阿部石炭商店

◎特約店募集致シマス
磐城セメント會社特約店
(久)金屋商店
磐城平町五丁目　電話九番九九番
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は(久)の生命なり

印刷物の御用命は總て
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町
電一〇七

中村齒科醫院
鍛冶町七